

# 令和5年度 小平市立上水中学校 学校評価報告書

**学校教育目標** ○自ら考え、進んで実行する人 ○心豊かで思いやりのある人 ○心身ともにたくましい人

## 目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 「和」を基盤とした教育活動を展開する学校
- 【目指す児童・生徒像】 ①「和」人間的な心の調和のとれた生徒 ②「和み」心穏やかに、楽しく学校に通い、自ら進んで学ぶ、心身ともに健康でたくましい生徒
- 【目指す教員像】 ①「和(環)」PDCAサイクルを生かした授業改善で学力向上、体力向上を目指す教師 ②「和(輪)」保護者、地域との密接な連携による教育活動を目指す教師

## 前年度までの学校経営上の成果と課題

- ・学習者用端末の効果的な活用について追究し、考察する時間や表現活動の時間をより多く確保できるように努める。
- ・デイリーライフや日々の言葉掛けから、生徒の心情の変化を読み取り、学年内で共有することにより、様々なアプローチで生徒の心に寄り添うことができた。
- ・教職員は、意欲的に働いているが、スクラップ&ビルドの視点が弱いため、業務改善に結びつかない。

|             | 具体的方策  | 第1回評価 |      | 成果・課題・対策   | 第2回評価 |      | 学校関係者評価  | 成果・課題・次年度以降の対策   |
|-------------|--|-------|------|--|-------|------|--|--|
|             |  | 取組指標  | 成果指標 |  | 取組指標  | 成果指標 |  |  |
| 学力向上        | ・本時の目標と流れの提示<br>・教員の説明を減らし、端的な指示により生徒に考えさせたり、表現させたりする時間の確保と設定        | 4     | 4    | ・授業初めに目標と流れを適切に提示することにより、学習内容を明確に伝えられるようになっている。<br>・具体的な方策を継続的に実践してきたことにより、どの教科でも生徒の対話的な活動を増やすことができた。<br>・考察や表現活動の時間を作るように意識している。        | 4     | 4    | ・授業はもろもろのこと放課後の補充学習や再テストも丁寧に、学力の底上げが図られている。<br>・家庭における学習者用端末を使ったデジタルドリルの利用効果を期待したい。<br>・成果が出にくい分野であるので、長期的な取組が必要である。自分の言葉で表現できる生徒の育成を継続してほしい。                      | ・本時の目標と流れの提示は定着し、生徒の対話的な活動も各教科で増えてきている。<br>・授業時間内に「振り返りシート」や「自己評価カード」を書く時間が取れず、宿題となることがあるので、記入時間を確保できるよう時間配分を工夫する。                     |
|             | ・放課後の補充学習や再テスト実施による基礎・基本の定着<br>・家庭での学習方法の例示、復習課題の明示<br>・夏期学習教室等の充実   | 2     | 3    | ・基礎学力の定着のための確認テストを継続している。<br>・生徒の意識を高めるため、さらに学習教室や既習事項を確認するテストを充実させる必要がある。<br>・学習者用端末に動画を配信し、家庭でも学習できるよう、いつでも見られるようにしている。                | 2     | 3    | ・校外学習や移動教室、修学旅行の取組では、生徒が主体的に行動のルールや決まりを考え、提案し、自ら決めたことを守って当日は実施することができた。学年が上がるにつれて、さらに生徒の意識が高まっていくことを期待している。  | ・次年度から導入するデジタル教材を家庭学習で活用し、家庭での自主的な学習の定着を図る。デジタル教材は教員側で生徒個々の学習状況の把握ができるため、放課後学習教室への参加を促す等、個の状況に応じた支援に活かすことにより、さらなる学力の向上が期待できる。          |
| (いじめ防止)健全育成 | ・生徒のアイデアを生かした学級・学年における取組<br>・生徒が活躍する場面の意図的な設定とプラス評価                  | 3     | 4    | ・生徒会本部や学級委員会等が企画するレク等で生徒同士の交流を深める活動を増やしている。<br>・学校行事等で生徒同士の交流の場面を作っている。<br>・主体的に行動し、実践できる力を身に付けさせるため、各委員会ですべて自主的に考え、実行させる。               | 3     | 3    | ・生徒が来校者に元氣よく挨拶ができ、健全に育っている。<br>・行事やボランティアへの保護者等の参加が多く、一体となって育成する姿勢が見える。<br>・コロナ禍で体験が少なかった分、生徒が主体的に行動する機会をさらに増やしてほしい。<br>・生徒同士の交流が悪い方へと向かわないよう、学内外での大人の見守りが重要である。   | ・毎日やり取りをしている「デイリーライフ」や年3回の「ふれあい月間」でのアンケートの記述、また日々の教員同士の情報共有により、生徒の小さな変化も見逃さず早期に発見・対応することができた。今後も「デイリーライフ」の活用を継続し、生徒とのコミュニケーションを密にしていく。 |
|             | ・いじめ調査の実施、デイリーライフ等の活用による実態の把握<br>・毎週の学年会・生活指導部会による実態に基づいた組織的対応の検討と実施 | 3     | 3    | ・学級担任を中心に、休み時間の様子やデイリーライフの記述から生徒の変化を把握し、早期の組織的な対応ができています。<br>・計画的に、ふれあい月間のいじめアンケートを実施し、生徒からの聞き取りを行っている。                                  | 4     | 4    | ・情報共有や報連相の徹底を図ることにより、会議時間の短縮も期待できる。<br>・前例にとらわれず、考え方を考えて、できることから改善していく。部活動の活動日数等も一度考え直してみようか。<br>・意識の差で働き方は変わる。仕事を減らすことにより、勤務時間も減ってくと考えられる。                        | ・各行事の目的や3年間を見通した行事間のつながり、保護者への経済的負担等を見直し、行事の内容等の精選を図る。行事の内容等を精選することにより教員の業務負担も軽減され、在校時間の短縮が期待できる。                                      |
| 業務改善・働き方改革  | ・週当たりの在校時間60時間以内   | 1     | 1    | ・C4th(校内ネットワーク)やICT機器等を活用して、会議の時間の削減を目指す。<br>・早く帰宅できるように、職員全体で仕事分担の負荷のバランスを均等にできるように配慮する。  | 2     | 2    | ・会議の回数を削減することができた。引き続き、次年度も可能なところは削減していく。<br>・慣習にとらわれることなく、業務の改善・削減に積極的に取り組んでいく。   |  |
|             | ・会議の精査や学校行事の精選、ライフワークバランスなどについての自己申告書への具体的な目標提示と取組                   | 1     | 1    | ・会議の開催数の精査を行い、急ぎでないものは次回に申し送る。<br>・自己申告書に提示した目標の達成に向けた取組が、具体的な実践につながっていない。   | 2     | 2    |  |  |
| 特色ある教育活動    | ・校内研修で場面に応じてICT機器を効果的に活用した授業の実践及び検証                                  | 3     | 4    | ・学習者用端末の積極的な活用が進んでいる。<br>・新たに導入されたSkymenuや既存の機能をより効果的に授業に取り入れられるかを考え、実践しようとしている。さらに実践を報告・共有する時間があると望ましい。                                 | 4     | 4    | ・授業に限らず教育活動全般でICT機器を活用し、定着が図られている。引き続き効果的な活用法を研究し、生徒の学習意欲向上を目指してほしい。<br>・新しい道具の運用には弊害が付きものである。生徒の意見も聞きつつ、前進してほしい。<br>・生徒の個に応じた指導・支援が工夫され、習熟度を問わず授業での生徒の学びが保障されている。 | ・生徒は学習者用端末の操作に慣れ、また端末を活用した発表の経験も多く積んでいるので、プレゼンテーション能力の向上が見られる。<br>・活用能力の向上とともに、学習者用端末の適切な使用等、モラル面の向上も同時に図る必要がある。                       |
|             | ・多様な生徒が、学びやすい学校環境の整備<br>・合理的配慮をした授業の工夫<br>・小・中連携を生かしたICT機器の活用        | 3     | 3    | ・視覚的な効果など、どの生徒にも分かる授業づくり『これだけ』をさらに徹底する。<br>・学習者用端末で画像を記録するなど、生徒の特性に応じた使い方を場面が見られるようになった。<br>・外部講師を招聘した校内研修会を行い、特別支援教育の視点での指導や環境整備を充実させる。 | 3     | 4    | ・特別支援教室「上水」の巡回指導教員から通常学級での指導・支援についての指導・助言を受け、合理的配慮の提供が充実している。<br>・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等、専門家の支援により、不登校生徒を関係機関につないだり、学校復帰につないだりすることができた。                         |  |